

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年3月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670201088
法人名	社会医療法人 卓翔会
事業所名	グループホーム 遊雅の郷
所在地	薩摩川内市入来町浦之名786番地 (電話) 0996-21-4500
自己評価作成日	平成30年1月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成30年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺には田んぼや山々があり、季節の移り変わりを実感できる環境にあります。基本理念である「人間として尊厳を守り、やすらぎのある生活をしていただく」を念頭におき、支援しています。家族との交流も大切にしており、面会時や年3回の食事会、施設行事への参加をしていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○事業所周辺には、消防署や警察署、職業訓練校や地域コミュニティセンター、軽費老人ホーム等の公共施設があるため、日々の生活の安心・安全につながっている。
また、消防署による年2回の訓練や警察署による定期巡回、職業訓練校からの介護実習の受け入れや中学生、高校生のサマーボランティアの受け入れなど積極的に地域交流も図っている。

○思いや暮らし方の希望を本人や家族から聞き取るほか、入居前に担当していたケアマネージャーや病院のソーシャルワーカーからの情報も参考にしながら把握している。また、入居後に担当職員が把握した利用者の意向については、家族や職員とも十分に話し合い、今後の改善につなげたり、共に取り組めるよう支援につなげている。

○理念にもある「尊厳」については、法人内で接遇研修を実施し、各事業所に研修内容を報告することで振り返り、人格の尊重やプライバシーを損ねない支援につなげており、特に職員の言葉遣いについては、馴れ合いの関係から言葉遣いが乱れないようにするなど、繰り返し話し合われ徹底して取り組まれている。また、トイレ誘導の際や入浴時の支援方法については、希望に応じて同性介助とするなど羞恥心にも配慮した支援に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	尊厳をもって過ごしていただけるように努めている。理念はスタッフルームや食堂に掲げ、常に共有している。	開設当初の理念に「住み慣れた地域の中で」という文言を追加し、更に「職員のスキルアップ」等の年度目標を掲げることで利用者の尊厳を守り、地域の中で笑顔で過ごせるよう、職員全員が理念を共有し支援につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の住民の方への挨拶するように心がけている。夏祭りや施設行事に、地域の方がボランティアで参加していただいている。	地域の文化祭の見学に出かけたり、中学生、高校生のサマーボランティアの受け入れや職業訓練校からの介護実習の受け入れなど積極的に交流を図っている。また、隣接するコミュニティセンターの活用や軽費老人ホームの夏祭り見学など日常的に出かけ交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	施設見学やボランティアで来られた際に相談を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>民生委員、消防署、老人会代表の方にも運営推進会議に参加してもらい、意見等取り入れている。</p>	<p>会議には利用者や家族、民生委員、地域住民のほか、行政職員や消防署員等が参加しており、事業所の活動内容の報告や地域活動への参加、防災についてなど多岐にわたり意見交換がなされている。また、外部評価の結果についても報告がなされ、参加者から意見を頂いている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議や諸手続きのしかたや相談に乗ってもらっている。</p>	<p>行政職員とは、介護保険関係書類の提出や運営推進会議で顔を合わせるほか、必要に応じ保護課とも連携を図っている。また、「サービス事業者連絡会」に加入し、勉強会や認知症実践者研修でも意見交換を図るなど連携を深めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束抑制防止委員会を設けて行動制限することがないようにしている。声掛けの仕方、支援方法も検討している。</p>	<p>身体拘束抑制防止委員会を中心とした意見交換や研修の場を毎月の職員会議で設けるほか、母体医療機関で実施される研修会にも参加し、言葉による拘束や見守りについてを話し合い、支援につなげている。また、近所にも理解を求め、見守りをしてもらえる関係を築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会を行い、身体拘束廃止委員会で、虐待の確認や支援の在り方について検討、職員会議で注意をうながしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>行政や地域包括支援センター、権利擁護センターに相談したり、制度利用につなげたりしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入所契約時に重要事項説明事項をもとに確認しながら説明を行っている。また、家族会議の際にご家族から寄せられた質問などをうかがうようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年2回の家族会で意見を伺ったり、面会時に個別に伺ったりしている。</p>	<p>入居時のアセスメントに加え、入居後も本人や家族の意見を聞き取るよう努めており、リハビリの希望に対し通院できるよう調整したり、活動量を増やしたい希望に対し、散歩に出かける機会を増やすなど、個々の要望に対応している。また、家族にホーム便りを送付することで近況を報告し感想や意見を頂いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>行事の都度、各自の意見や反省を記入してもらっている。職員会議でも、意見を出してもらっている。</p>	<p>管理者と職員とは日頃より良好な関係が築かれ、意見を言いやすい職場環境にあり、行事食のメニューや支援方法等その都度話し合うことができています。また、資格取得や研修会への参加、休日の調整など、可能な限り対応するなど、働きやすい環境に配慮されている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員会議の報告書を事務長に提出。職員の要望など検討してもらっているようにしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各種研修会などにできるだけ参加できるように調整している。また、職員会議で伝達・講習を行うようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会には入っていないが、研修会などの案内をもらい交流がもてるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にできるだけ施設見学に来てもらい、現在の状況をうかがっている。来所ができない場合は訪問している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や入居相談時、現在置かれている状況や困っていることなど、ゆっくりと聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた際に現在の置かれている状況を確認し、当施設ですぐに対応できない場合は、他事業所を紹介するなど対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と一緒に掃除をしたり、洗濯物をたたんだりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで近況報告、面会時や電話で支援の在り方を相談したり、協力を依頼することもある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた、家族や知人とゆっくり過ごしていただけるように支援している。	入居前の馴染みの関係を記録し、電話や手紙の取り次ぎ、訪問の手助けなど家族と職員が協力し支援している。個別に希望する場所については、主に家族が同行しているが、難しい場合は職員が同行することもあり、その都度対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂や廊下などでいつでも会話ができるようになっている。食堂では、テレビを見たり、本を読んだり、自由に利用していただいている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に施設での支援業況、生活状況などの情報提供する。様子を伺いに行くこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中での会話や表情から思いを理解するように努めている。	思いや暮らし方の希望を上手く表現できない場合は、日常の中で見せる表情や仕草等から汲み取るとともに家族や入居前の担当ケアマネジャー、病院の相談員の意見も参考にしながら把握するよう努め支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談だけでなく、日頃の会話や行動をもとに、ご家族や来所された友人などと昔話をしたりする場面で把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から、午前・午後・夕方・夜間を通じて行動や思いなどを記録するようにしている。食事・水分量、排泄パターンシートを利用し、タイミングをはかり声掛け支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の身体状況などを確認し、モニタリングを通して入居者の状態を客観的に把握できるようにしている。また、本人や家族の意向もケアプランに反映するようにしている。	本人や家族の意向を基に主治医の意見も参考にしながら介護計画を立てている。担当職員が把握した情報を職員間で話し合い、毎月のモニタリングとして記録するとともに次期計画につなげている。また、状態に変化がみられた場合は速やかに計画を見直し現状に即したものに作り替えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の状況を申し送り時に確認し、個々の介護記録に記入し、職員が何時でも見れることができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の健康チェックを始め、リハビリ支援、体調不良等の状況に応じて支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署も隣接しており、運営推進会議のメンバーであったり、研修、行事等で隣接するコミュニティーセンターを利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望される病院へ通院、リハビリ支援をしている。	本人家族の希望する医療が受けられるよう家族と職員が協力し合い支援している。受診の際は日々の状態がわかるよう情報提供に努めるとともに薬の変更等受診の内容を介護記録や申し送りノートに記入し、申し送り時等随時報告することで情報の共有を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護師による週1回の身体状況の把握が行われ、相談・助言をもらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時に病状説明には、職員が同席させてもらい、治療方針や退院時期について確認、入院中の面会や経過確認など入院によるダメージをできるだけ少なくできるように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や急変時の対応について入居時に書面で確認。体調不良時の受診状況は毎回家族に報告している。</p>	<p>入居時に「重度化した場合における対応に関する指針」を説明し、同意書に署名をもらっている。また、状況に応じ繰り返し同意書を確認することで、本人や家族の変化する思いに寄り添っている。これまでに看取りの事例はないが、体制は整っており、本人や家族の希望に沿って対応していきたいと考えている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>AEDを設置。普通救命講習を受講している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を行い、初期消火、通報、避難訓練など毎回消防署署員にもきてもらい指導を受けている。地域の方にも支援をお願いしてある。	年2回夜間想定を含む災害訓練を実施しており、通報の手順や避難経路の確認など事前にシュミレーションも実施している。地域住民の参加が得られ難い状況だが、隣接するコミュニティセンターが避難先でもあるため、今後は連携していきたいと考えている。備蓄は飲料水や食料など約3日分が用意されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の一人ひとりのプライドに配慮し支援に努めている。声掛けにも配慮している。	毎年、外部講師を招き接遇研修を実施している。日頃より馴れ合いの関係から言葉遣いが不適切にならないよう職員間で確認し合い声をかけている。また、トイレ誘導時の声のかけ方に気を配るとともに守秘義務の徹底にも努めて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重しながら、自己決定ができるように支援している。食事の際や会話の中からくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れが決まっているが、居室や廊下、食堂等で自由に過ごしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床時には、洗面の声掛けや介助を行い、その日の衣類を選んでもらったりしている。2か月おきに訪問理容を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや嚥下機能に合わせた形態や調理の工夫をおこなっている。食器類を片づけたり、テーブルを拭いてもらうこともある。	献立は法人の管理栄養士が立てたものを参考にしている。調理の下ごしらえや台拭き、下膳など一連の工程を利用者と職員が共に行い、同じメニューと一緒に食べている。また、季節に合わせた行事食の提供や干し柿作り、外食に出かけるなど、食事を楽しむ機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月栄養委員が献立を立てている。食事・水分量を毎回確認し、体重測定も定期的に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けを一人ひとりの能力に応じた支援をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用して、パターンを把握し、声掛け・誘導をしながら、トイレで排泄できるように支援している。	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握し、こまめにトイレ誘導を行うことで、おむつに頼らない生活を支援している。また、日頃より牛乳やヨーグルト、バナナ等食物繊維を多く含む食材を摂ることで、便秘予防や改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分調整や排泄時にお腹をさすったり、レクでの体操、排泄チェック表で確認し必要に応じて下剤の調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日の心身の状態を把握して、入浴を楽しめるよう個々の状態を見守り、十分な水分補給ののち個々に応じた入浴を支援している。	週3回程度の入浴としているが、希望があればいつでも入浴できる。また、羞恥心に配慮し同性介助による支援も可能である。高齢化に伴い浴槽をまたぐ動作が困難な場合には、シャワー浴で対応したり、職員2人で介助することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーション等を通して活動を促し、夕方にかけて、リラックスできるよう考慮し、安心して夜休息がとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はわかりやすく管理し、常に確認ができるようにしておき、服薬時は入居者本人に直接錠剤を手渡し確実に服用していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の意欲が能力に応じて、やる気を引き出しながら、食材の下ごしらえ、洗濯物たたみなど楽しみながら行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候・気温を考慮しながら、入居者の希望にそうようにできる限り散歩をする。家族の協力をもらいながら、年3回の外食を楽しむにされている。	初詣や季節の花見、ふれあい広場や地区の文化祭に出かけるほか、日常的に散歩やドライブなど天候等に考慮しながら出かけている。個別に希望する外出先へは主に家族が支援しており、外食や馴染みの場所に出かけている。歩行が難しい場合でも車椅子を利用したり、車椅子対応のリフト車を利用することで可能な限り出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持を希望される入居者には、少額のお金を持っていただいている。外食時には、付き添いながら買い物支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話は自由に利用できるようなっている。遠方の方には、できるだけ電話で話をしていただけるよう要請している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂に花や植物を飾り、季節感を出すように心がけている。食堂や廊下で自由に会話ができるようになっている。	玄関の扉は大きく、靴の脱ぎ履きがしやすいようベンチが造りつけられている。広いリビングには季節の花や植物が飾られ清潔感があり、畳スペースでは利用者同士で洗濯物をたたんだり、会話や昼寝をするなど、くつろげる場所になっている。トイレは広く動線も良好であり、介助しやすい造りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関にベンチがあり、くつろいで会話したり、歌を唄われている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を持ってきていたり、カレンダーなど自分で色塗りしてもらって、飾ってある。	エアコンやタンス、電動ベッド、洗面台が備え付けられ、また、自宅からテレビや仏壇を持ち込まれている方もおられるなど、自由に居心地のよい居室になるよう本人や家族、職員で話し合い家具等をセッティングしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できない部分は介助し、立ち上がりや移動動作が容易になるよう介助バーの活用を行い、自力でできている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	尊厳をもって過ごしていただけるように努めている。 理念はスタッフルームや食堂に掲げ、常に共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の住民の方への挨拶するように心がけている。夏祭りや施設行事に、地域の方がボランティアで参加していただいている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	施設見学やボランティアで来られた際に相談を受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、消防署、老人会代表の方にも運営推進会議に参加してもらい、意見等取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議や諸手続きのしかたや相談に乗ってもらっている。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束抑制防止委員会を設けて行動制限することがないようにしている。声掛けの仕方、支援方法も検討している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会を行い、身体拘束廃止委員会で、虐待の確認や支援の在り方について検討、職員会議で注意をうながしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>行政や地域包括支援センター、権利擁護センターに相談したり、制度利用につなげたりしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入所契約時に重要事項説明事項をもとに確認しながら説明を行っている。また、家族会議の際にご家族から寄せられた質問などをうかがうようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年2回の家族会で意見を伺ったり、面会時に個別に伺ったりしている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>行事の都度、各自の意見や反省を記入してもらっている。職員会議でも、意見を出してもらっている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員会議の報告書を事務長に提出。職員の要望など検討してもらっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各種研修会などにできるだけ参加できるように調整している。また、職員会議で伝達・講習を行うようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会には入っていないが、研修会などの案内をもらい交流がもてるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前にできるだけ施設見学に来てもらい、現在の状況をうかがっている。来所ができない場合は訪問している。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>施設見学や入居相談時、現在置かれている状況や困っていることなど、ゆっくりと聞くようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談に来られた際に現在の置かれている状況を確認し、当施設ですぐに対応できない場合は、他事業所を紹介するなど対応をしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者と一緒に掃除をしたり、洗濯物をたたんだりしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで近況報告、面会時や電話で支援の在り方を相談したり、協力を依頼することもある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた、家族や知人とゆっくり過ごしていただけるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂や廊下などでいつでも会話ができるようになっている。食堂では、テレビを見たり、本を読んだり、自由に利用していただいている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に施設での支援業況、生活状況などの情報提供する。様子を伺いに行くこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中での会話や表情から思いを理解するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談だけでなく、日頃の会話や行動をもとに、ご家族や来所された友人などと昔話をしたりする場面で把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から、午前・午後・夕方・夜間を通じて行動や思いなどを記録するようにしている。食事・水分量、排泄パターンシートを利用し、タイミングをはかり声掛け支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の身体状況などを確認し、モニタリングを通して入居者の状態を客観的に把握できるようにしている。また、本人や家族の意向もケアプランに反映するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の状況を申し送り時に確認し、個々の介護記録に記入し、職員が何時でも見れることができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の健康チェックを始め、リハビリ支援、体調不良等の状況に応じて支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署も隣接しており、運営推進会議のメンバーであったり、研修、行事等で隣接するコミュニティーセンターを利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望される病院へ通院、リハビリ支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護師による週1回の身体状況の把握が行われ、相談・助言をもらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時に病状説明には、職員が同席させてもらい、治療方針や退院時期について確認、入院中の面会や経過確認など入院によるダメージをできるだけ少なくできるように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や急変時の対応について入居時に書面で確認。体調不良時の受診状況は毎回家族に報告している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>AEDを設置。普通救命講習を受講している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防訓練を行い、初期消火、通報、避難訓練など毎回消防署署員にもきてもらい指導を受けている。地域の方にも支援をお願いしてある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の一人ひとりのプライドに配慮し支援に努めている。声掛けにも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重しながら、自己決定ができるように支援している。食事の際や会話の中からくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れが決まっているが、居室や廊下、食堂等で自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床時には、洗面の声掛けや介助を行い、その日の衣類を選んでもらったりしている。2か月おきに訪問理容を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや嚥下機能に合わせた形態や調理の工夫をおこなっている。食器類を片づけたり、テーブルを拭いてもらうこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月栄養委員が献立を立てている。食事・水分量を毎回確認し、体重測定も定期的に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けを一人ひとりの能力に応じた支援をおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用して、パターンを把握し、声掛け・誘導をしながら、トイレで排泄できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分調整や排泄時にお腹をさすったり、レクでの体操、排泄チェック表で確認し必要に応じて下剤の調整も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日の心身の状態を把握して、入浴を楽しめるよう個々の状態を見守り、十分な水分補給ののち個々に応じた入浴を支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーション等を通して活動を促し、夕方にかけて、リラックスできるよう考慮し、安心して夜休息がとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はわかりやすく管理し、常に確認ができるようにしておき、服薬時は入居者本人に直接錠剤を手渡し確実に服用していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の意欲が能力に応じて、やる気を引き出しながら、食材の下ごしらえ、洗濯物たたみなど楽しみながら行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候・気温を考慮しながら、入居者の希望にそうようにできる限り散歩をする。家族の協力をもらいながら、年3回の外食を楽しみにされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭所持を希望される入居者には、少額のお金を持っていただいている。外食時には、付き添いながら買い物を支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話は自由に利用できるよくなっている。遠方の方には、できるだけ電話で話をしていただけるよう要請している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関や食堂に花や植物を飾り、季節感を出すように心がけている。食堂や廊下で自由に会話ができるよくなっている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下や玄関にベンチがあり、くつろいで会話したり、歌を唄われている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの家具等を持ってきていたり、カレンダーなど自分で色塗りしてもらって、飾ってある。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>できない部分は介助し、立ち上がりや移動動作が容易になるよう介助バーの活用を行い、自力でできている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない